

## (4) 山田学区

### ①まちづくりの方向性

#### ①-1. 生活拠点の形成と交通環境の充実

- ・今後の高齢化の進展や日常生活サービス機能が不十分な現状を踏まえ、より身近なところで様々な生活サービスが享受できる生活拠点の形成を目指します。
- ・多様な交通手段によるアクセス利便性を高める交通拠点の形成や公共交通の充実を目指します。

山田学区は、西側が琵琶湖に面し、東側の一部が市街化区域に含まれる学区となっておりますが、学区内地域の多くが、市街化区域から離れた浜街道（(主) 大津守山近江八幡線）沿いや湖岸付近に位置している状況です。

市街化調整区域内の2010年（平成22年）の人口は約4,500人となっており、常盤学区に次いで多い状況ですが、2040年に向けては人口が4割程度減少し、高齢化率も40%を上回る見込みです。

また、日常生活に欠かすことのできない商業、医療や公共交通の徒歩圏人口カバー率が相対的に低く、特に商業に関しては、徒歩圏人口カバー率が2割に満たない状況です。

このような状況から、山田学区では、今後の高齢化の進展等も考慮する中で、より身近なところで様々な生活サービスが享受できる生活拠点を形成することが必要です。

また、生活拠点内に、バスや自転車等でのアクセス利便性を考慮した交通拠点を整備するほか、公共交通の充実を図ることで、身近なエリアで歩いて暮らせる健幸まちづくりの実現を目指します。

#### ①-2. 地域資源を活かした産業の支援

- ・「SOFIX 野菜」等の農業関連資源の付加価値や社会的ニーズを考慮し、実現性の高い地域振興策を検討します。

山田・笠縫学区には、あわせて2,000棟余りのハウス団地が集積し、活用が期待されます。地域資源として、ハウス栽培での「SOFIX 野菜」や草津ブランドに認証されている「草津メロン」などの農業関連資源が存在しています。

「SOFIX 野菜」は、食の安全性が重要視される現在において、健全な土壌で栽培された野菜としての付加価値やブランド力を高める可能性があることから、事業者ヒアリングの結果等を考慮し、実現性の高い地域振興策を検討していくものとします。

また「草津メロン」についてもブランド力の維持・向上に向けた取組みを検討していくものとします。

#### 地域の現状・課題に係る評価

高齢化率	△	
医療	△	→
高齢者福祉	○	
商業	△	
基幹的公共交通	△	→
地域資源の活用の可能性	大	→

#### 現状課題に関連する施策の柱と方向性

1 生活拠点の形成	重点 取組み
2 交通環境の充実	重点 取組み
3 地域資源を活かした産業の支援	重点 取組み

※ 【高齢化率】 「○」市街化調整区域の平均値より低い項目、「△」市街化調整区域の平均値より高い項目  
 【医療・高齢者福祉・商業・基幹的公共交通】「○」徒歩圏人口カバー率の平均値を上回る項目（平均値と同じ場合を含む）、「△」徒歩圏人口カバー率の平均値を下回る項目、「×」徒歩圏人口カバー率が「0%」の項目  
 【地域資源の活用の可能性】「大」豊富に存在し、活用の可能性が高い。「有」存在するが、活用には検討が必要。

## ②将来ビジョン

### ②-1. 生活拠点の形成

#### ・学区の中心に位置する区域に生活拠点を形成

- ・学区内の基幹的公共交通路線である浜街道（（主） 大津守山近江八幡線）の沿線を中心に、既存の公共施設と連携して生活サービス機能の集積を図ることによって、地域住民の利便性の確保を推進します。

#### ・生活拠点内への商業、医療施設等の誘致やアクセスの確保

- ・山田学区に不足する日常生活サービス機能を確保し、利便性の高い生活環境を創出するため、生活拠点内への商業、医療施設等の誘致やアクセスの確保を推進します。

### ②-2. 交通環境の充実

#### ・バス、自転車等でのアクセス利便性を高める交通拠点の形成

- ・学区内地域から生活拠点への多様なアクセス（バスや自転車等）に対応するほか、“まちなか”にアクセスするための補完公共交通と基幹的公共交通の乗り継ぎ拠点となる交通拠点の形成を推進します。

#### ・生活者のニーズに応じた基幹的・補完公共交通の充実（路線の再編等）

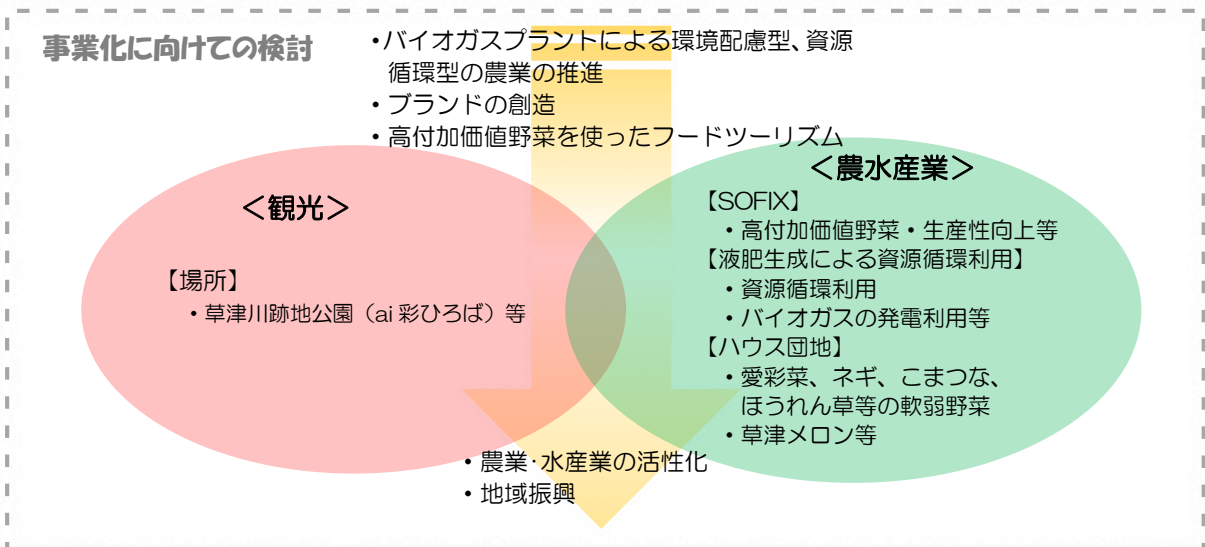
- ・学区内の各地域と生活拠点を結ぶ補完公共交通（まめバス等）を充実します。（生活者のニーズに応じた路線の再編等）
- ・生活拠点と“まちなか”を結ぶ基幹的公共交通を充実します。（生活者のニーズに応じた路線の再編等）

#### ・歩行者の安全性向上

- ・交通量が多く基幹的公共交通軸にもなっている浜街道（（主） 大津守山近江八幡線）については、歩道の設置を県に要望します。

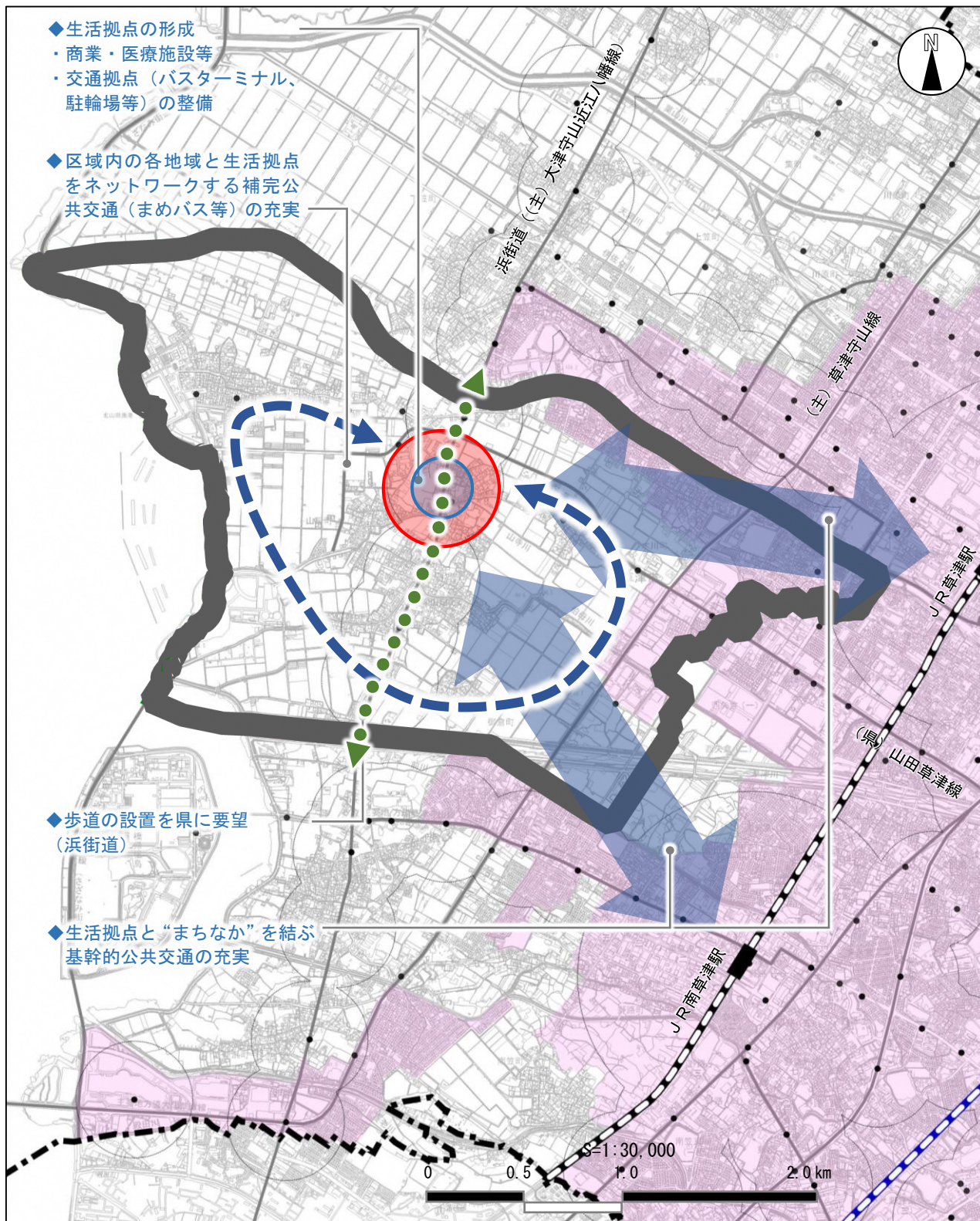
### ②-3. 地域資源を活かした産業の支援

- ・地域資源（観光、農業）を組み合わせることで地域活力向上を推進します。



※事業化に向けての検討内容は、将来的に普及、拡大されることを期待したものです。地域の中で、今後議論の対象となる可能性のあるものを記載しています。

山田学区 生活と交通に係る検討図



凡 例					
	学区界		バス停		生活拠点
	行政界		基幹的公共交通の徒歩圏		交通拠点
	市街化区域		歩道の整備（要望）		
	主要道路		基幹的公共交通の充実		
	鉄道		補完公共交通（まめバス等）の充実		

## (5) 老上西学区

### ①まちづくりの方向性

#### ①-1. 生活拠点の形成と交通環境の充実

・既存の生活拠点を中心とした50戸連たん制度の厳守等により市街地の拡散を抑制することで、利便性の高い生活環境を維持していくものとします。

老上西学区は、東側から南側にかけての一角が市街化区域に含まれ、(主) 大津草津線の沿線には大型商業エリアが位置しています。

市街化調整区域内2010年(平成22年)の人口は約4,100人と相対的に多く、2040年に向けても人口が増加する見込みとなっており、このような状況等から、2016年(平成28年)に老上西小学校が新たに整備され、老上西まちづくりセンター等と一体となって学区の生活拠点を形成しています。

また、市街化区域に隣接して一体の市街地を形成することから、医療、高齢者福祉、商業、公共交通等の徒歩圏人口カバー率が相対的に高く、特に医療・福祉に関しては、ほぼ全ての世帯が徒歩圏に含まれており、50%を上回る著しい高齢化の進展が想定される中でも、高齢者の安心な生活が維持できると考えられます。

このような状況から、将来においても一定の生活利便施設が存続し、高齢者の安心な生活も確保された利便性の高い生活環境を維持していくものとします。

#### ①-2. 地域資源を活かした産業の支援

・歴史資源や体験工房等の地域資源の関連性や社会的ニーズ等を考慮し、実現性の高い地域振興策を検討します。

琵琶湖に面する老上西学区には、観光資源としての矢橋帰帆島公園や石津寺などの歴史的資源、体験工房など、活用が期待される様々な地域資源が存在しています。

このような状況から、各地域資源の関連性や事業者ヒアリングの結果等を考慮し、実現性の高い地域振興策を検討していくものとします。

地域の現状・課題に係る評価		現状課題に関連する施策の柱と方向性		
高齢化率	△	→	1 生活拠点の形成	
医療	○			
高齢者福祉	○			
商業	○	→	2 交通環境の充実	要検討
基幹的公共交通	○			
地域資源の活用の可能性	大	→	3 地域資源を活かした産業の支援	重点 取組み

※【高齢化率】「○」市街化調整区域の平均値より低い項目、「△」市街化調整区域の平均値より高い項目  
 【医療・高齢者福祉・商業・基幹的公共交通】「○」徒歩圏人口カバー率の平均値を上回る項目(平均値と同じ場合を含む)、「△」徒歩圏人口カバー率の平均値を下回る項目、「×」徒歩圏人口カバー率が「0%」の項目  
 【地域資源の活用の可能性】「大」豊富に存在し、活用の可能性が高い。「有」存在するが、活用には検討が必要。

## ②将来ビジョン

### ②-1. 生活拠点の形成（参考）

#### ・老上西小学校や老上西まちづくりセンター周辺の生活拠点としての機能向上

- ・老上西小学校や老上西まちづくりセンターが集積するエリア一帯の生活拠点としての機能向上を推進します。

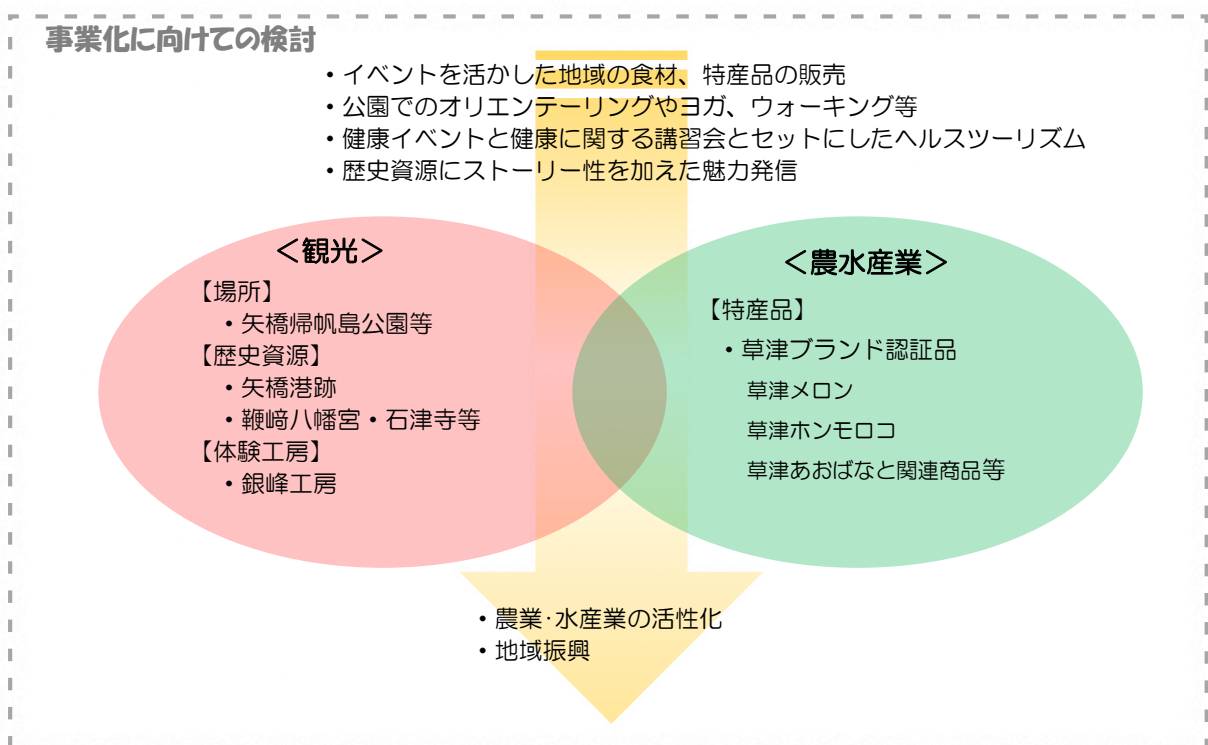
### ②-2. 交通環境の充実

#### ・歩行者・自転車交通の安全性向上

- ・交通量が多く基幹的公共交通軸にもなっている浜街道（（主）大津守山近江八幡線）については、歩道の設置を県に要望します。
- ・“まちなか”へのアクセスの向上を推進します。

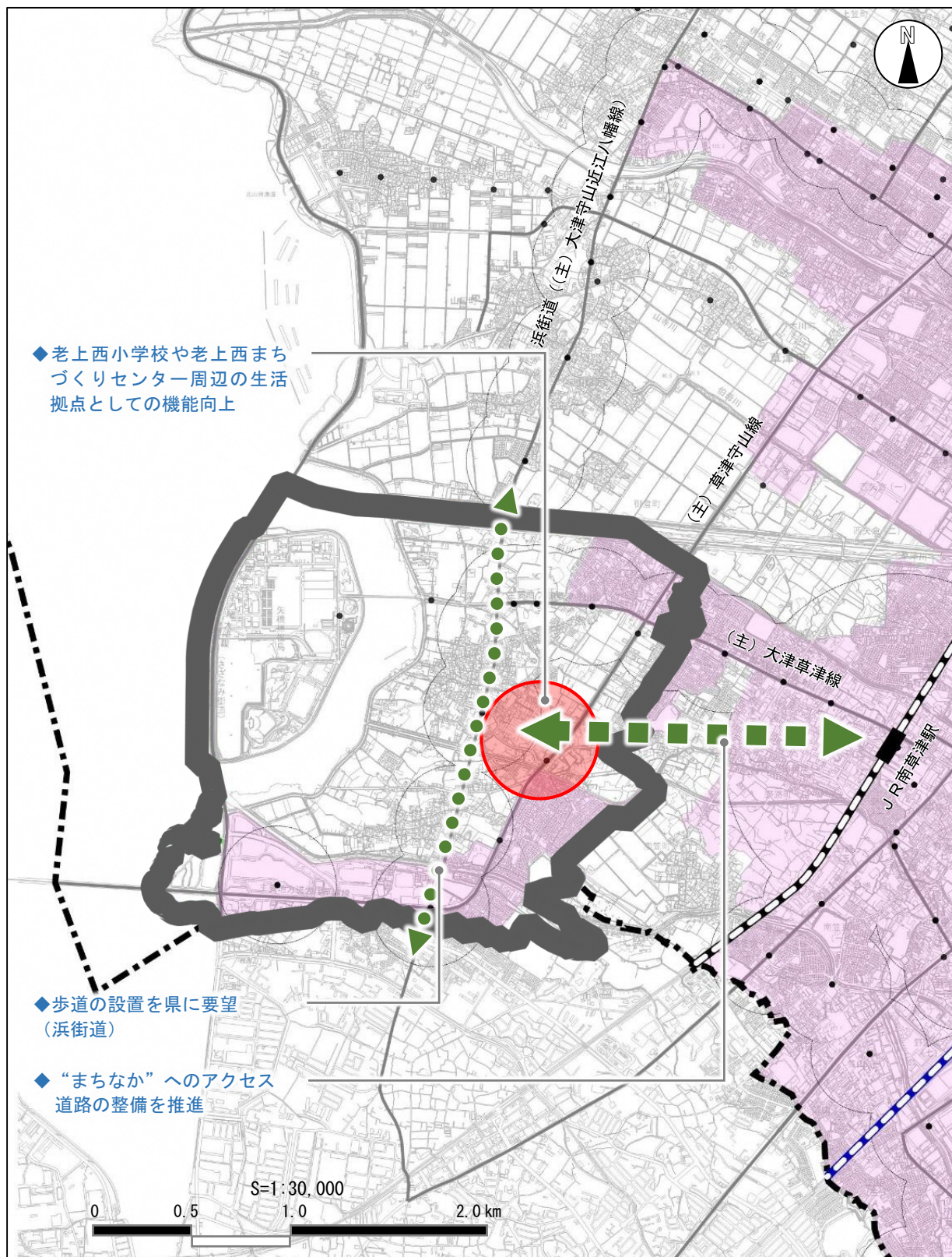
### ②-3. 地域資源を活かした産業の支援

- ・地域資源（観光、農業）を組み合わせることで地域活力向上を推進



※事業化に向けての検討内容は、将来的に普及、拡大されることを期待したものです。地域の中で、今後議論の対象となる可能性のあるものを記載しています。

老上西学区 生活と交通に係る検討図



凡 例					
	学区界		バス停		生活拠点
	行政界		基幹的公共交通の徒歩圏		
	市街化区域		歩道の整備 (要望)		
	主要道路		基幹的公共交通の充実		
	鉄道		まちなかへのアクセス道路の整備		